



39

通巻 第2743号
2016年4月22日発行1960年創立
昭和35年2月5日第2510地区
重点課題

●2015-2016年度 IRテーマ

世界へのプレゼントになろう

2015-16年度IR会長

K. R. ラビンドラン

- ①クラブ戦略計画への支援
- ②新会員のフォロー支援
- ③クラブサポート強化

●本日 4月22日(金)のプログラム

◎会員卓話「生活習慣病(糖尿病)について」

高木 正光 会員

●来週 4月29日(金)のプログラム

◎休会となります

●再来週 5月6日(金)のプログラム

◎スピーカー

小樽新幹線高速道路推進室長 西島 圭二様

●第38回例会報告 4月15日(金) 「人口減少時代のまちづくり」 スピーカー:片桐由喜教授(小樽商大教授) ■司会 廣瀬副会長

■点 鐘 ■ 廣部会長

■ロータリーソング ■ 「それでこそロータリー」

■ゲスト・ビジターの紹介 ■

片桐 由喜 様 (小樽商大教授)

■会長の時間 ■ 廣部会長

○小樽商大の片桐教授、おいでいただき有り難うございます。小樽商大の皆様には、日頃より何かとお世話になっております。今日は、ご講演よろしくお願ひいたします。それでは理事会の報告をいたします。議題の1、4月、5月の例会プログラムです。4月8日、先週は職場訪問例会で「かま栄」さんを訪問させていただきました。佐藤社会奉仕委員長には、色々とお話をいただきありがとうございます。来週は高木先生に卓話をお願いしております。5月の例会では、5月19日(木曜日)新しくオープンしました「おたる宏楽園」での夜間例会を予定しています。宏楽園さんは新聞、テレビに取り上げられているように、予約が殺到しており、どうしても木曜日でということになりました。会費は5,000円です。議題の3、余市RC55周年には、今のところ現3役と次年度会長、幹事の5人が参加の予定です。他に参加希望の方がいましたら、坂口幹事に申込み下さい。議題の4、現新クラブアッセンブリーは6月3日、午後6時、ニュー三幸で行います。今期と来期の理事、役員、委員長は出席をお願いします。議題の5、記載されている4つのイベント、いずれも当クラブの斎藤仁会員が実行委員長をつとめ、後援内容としては、チケット、ポスター、プログラム等への掲載許可ということでした。承認されました。議題の最後です。小樽商大のグローバル戦略推進センターが今年の4月1日から本格稼働することになりました。そこで、当クラブに直接関係のある部署についての変更点について、松浦国際奉仕委員長より説明がございました。以上記載のとおりです。

■地区・研修協議会に参加して ■ 上野次期会長

○4月5・6日は地区会長エレクト研修会に行ってきました。次年度会長の武部さんから地区の方針や、

RIのジョン・F・ジャーム会長エレクトからテーマや優先項目である、ポリオ撲滅と会員増強についてお話がありました。ポリオについては岡崎さんが委員長を務めていて、大変良いビデオができたとのことですので、次期は皆さまともう一度ポリオについて勉強をしたいと思っております。4月10日はパークホテルで地区の研修会がありました。こちらは次期幹事の三栖さん、広報委員長の盛さんの代理で坂口さん、職業委員長阿部さん、社会委員長高木さん、国際奉仕の桂さん、青少年の佐野さんに参加をしてもらいました。財団と米山はお金がかかることではありますが、協力をして行きたいと思っています。



■幹事報告 ■ 坂口幹事

○岩内RC=例会会場例会時間変更のお知らせ
「夜間例会」4/21(木)

点鐘 午後6時30分 会場:「味処 桂」

○余市RC=移動例会のお知らせ

「移動夜間例会 お花見例会」

点鐘 18:30~ 会場:ホテル 水明閣

○来る6月3日(金)午後6時 ニュー三幸 3階にて「現・新 クラブアッセンブリー」を開催いたします。2015-16年度委員長・理事・役員並びに2016-17年度委員長・理事・役員予定者には FAXさせていただきます。その際に15-16年度各委員長は委員会報告の提出をお願いいたします。

※各委員長出席出来ない場合は、副委員長に代替え出席依頼をお願い致します。

○移動夜間例会のお知らせ

5月19日(木) 点鐘 18:00~ 場所:「宏楽園」

(注) 5月20日(金)振替になります。

※送迎バスご利用の会員は、乗車停留所をお知らせください。詳細はFAXにてお知らせ致します。

—例会プログラム—

人口減少時代のまちづくり

片桐 由喜様 (小樽商大教授)



小樽は、かつて商都として栄えた面影を残しながらも、現在は人口減少と急速な少子高齢化に直面し、克服すべき多くの課題をかかえている。人口はこの20年間、一貫して減少し、高齢化率は高まる一方である(高齢化率は2016年3月現在、37%)。

人口減少と少子高齢化は様々な影響を社会のあらゆる面に及ぼす。小樽に関していえば、学校の統廃合や経済活動の停滞などが目に見えるはっきりとした影響である。たとえば、この3月末で5つの小中学校が閉校した。小中学校は単に学ぶだけの空間ではなく、地域社会のコミュニティ形成の基盤である。その学校が消失することは地域社会にとっての損失である。また、国道5号線沿いには、いわゆるシャッター商店が散見される。それに代わって大手本州資本によるスーパーやコンビニ、さらにはネット販売が活況を呈する。

このような時代のまちづくり、つまり、この小樽で人々が心豊かに暮らすためにはどうすべきか。人口減少と少子高齢化といった人口動態は、容易に変えることはできない。むしろ、この現実を直視し、それを好転させるために私たちができることを考え、実践することが生産的である。つまり、今、小樽で暮らす私たちの生

活の質を高め、小樽からの転出を思いとどまらせること、あるいは、小樽に住みたいと思う人を増やすことである。

できることの1つに地元商店で買い物をする、あるいは札幌ではなく小樽のスーパーやコンビニで買い物をすることがある。このような消費行動が小樽市内での貨幣流通、雇用の増加という好循環への契機となりうる。そして、より重要なことは、このような好循環の意義を市民へ伝える啓蒙、宣伝である。多少、割高の対価を支払っても、それは「まちを作る」あるいは「まちを生き返らせる」対価であり、価値ある行動であることを理解してもらうのである。人々の意識を変えることが何より重要である。人口減少、少子高齢社会であっても住みやすいまち作りのための手法に集住がある。コンパクトシティともいう。また、人口流出を防ぎ、人を招くには教育環境の充実が効果的である。集住も教育の充実も個人の努力だけでは到底、達成できない事業である。教育を含む広範な行政部門のリーダーシップや企業などの協力が必要である。

人口減少と少子高齢化に無縁の地はこの日本にはない。東京とて例外ではない。この先、いっそう厳しい状況が予想されるなか、私たちが心豊かに暮らすためには、まちを元気にするために、どれだけ知恵を絞り、実践できるかにかかっている。

■出席委員会■

●平成28年4月15日

会員総数 72名 本日の欠席者 14名
荒木、浅村、大橋、小笠原、大谷、桂、角野、工藤、紺谷、林、本間(清)、本吉、山田、山吹

●平成28年3月18日(金)

会員総数 72名 出席摘要免除者 14名
病欠者数 0名 ホーム欠席者数 20名

メーカーシップ 7名 純欠席者数 13名
確定出席率 81.16%

■メーカーシップ■

3/21 4/1 山田(江別RC)
3/22 湊、大谷、山吹(入船村会)
4/10 桂(地区協議・研修会)
4/5 山田(小樽RC)

●まごころ箱 いつも有難うございます!

廣部 会員	IM無事終了!有難うございます。	坂口 会員	小失敗。
佐藤(友)会員	長女の結婚式が無事終わり親としての肩の荷が少し軽くなりました。	三栖 会員	お先に失礼させていただきます。
大倉 会員	夫人誕生日祝。	佐藤(甚)会員	夫人誕生日祝。
荒内 会員	夫人誕生日祝。	山村 会員	夫人誕生日祝。
齊藤 会員	夫人誕生日祝。	新倉 会員	結婚祝。

まごころ箱入金集計額 (H27.7.3~4.15)

4月15日分 30,000円 合計 **917,500円**